

1 「感情記憶の奇跡」(真木 2003:230-231)

神の存在が根底から疑われる時代にはじめて、すなわち、中世ヨーロッパの共同幻想を確固としてになっていた社会関係が根底から解体する時にはじめて、自我の存在を支える支柱も、他のものにあらためて求められねばならない。このように神の空位を代位する対象こそが、自然であり他者であったはずである。と、すれば、近代の生成期と確立期を分かち救済の二様式、〈われ信ず〉と〈われ感ず〉のあいだの相違は、みかけほど大きくはないということも分かる。〈信ずる〉とは神を感ずる様式であるし、〈感ずる〉とは自然や他者を信ずる様式に他ならない。

けれども〈信ずる〉かぎりの自我が、神というその定義上永遠なるものに支えられていたのに対し、〈感ずる〉対象はそれじたい転変するものであって、それがさしあたりその瞬間には自我のリアリティを支えうるものとしても、時間的持続の解体はここにはじめて徹底したかたちをとることになることを、前世いつにおいてもすでにみてきた。

18 世紀にはデカルトの批判社であるヒュームが、自我の同一性をついにさまざまな知覚の束にまで解体する。そしてヒュームが「人間にとっての人格的同一性」のただひとつの源として認めたのは記憶の構造であった。記憶による持続の回復は知覚を感覚に置き換えても成立するから、それ以後記憶＝回想は、ヒュームのフランスでの友人ルソーから、19 世紀のさまざまなロマン主義者たちを経てプルーストに至るまで、決定的なやくわりを担うことになる。

すみれの匂いは、あまたの春の享楽を魂によびもどす。

(『ピレネー地方での観察』)

とラモンが記し、

かしこには、私の青春が、小鳥たちの群れの用に私の足音につれてうたう、あの灌木のしげみがある。(『回想』)

とミッセが語るように、「感情的記憶の奇蹟」は、現在の瞬間の中に持続をよみがえらせる。

それは〈信ずる〉自我に対して神の恒久性があたえていたものに似たものを、

＜感ずる＞自我にたいして与える。記憶が神を代位して自我の持続する時間を支える。

＜感情的記憶の奇蹟＞のはたらきは、よくみると二重になっていることがわかる。

それは第一に形式的に、＜現在＞の瞬間を他のいくつもの瞬間とかさね合わせることで、厚みのある持続の感覚を現出する。アンデスのチチカカ湖上に住むウーロ族の浮島のように、水にただよういくつものいかだの小片がたがいにひきよせられることをとおして、いつか生活の地盤に似たものが獲得される。

第二にそれは内容的に、自我のそのたしかな実在感を支える関係性のうちに息づいていたような過去を、現在のうちによみがえらせる。＜感情的記憶の奇蹟＞の第一の形式的なはたらきが、第二の内容的なはたらきをつねに伴うとは限らないが、第二のはたらきが伴うときにそれは完璧なものとなる。この浮島を、いわば現実の大地に接岸するだろう。

2 「聖地をひらく」

(2008年5月、岡本 亮輔、ボランティア・スタッフ、筑波大学大学院生)

<http://www.cybersuds.co.jp/ge/pilg/0805okam/okamoto.htm>

人類学者のヴィクター・ターナーは、こうした巡礼の過程で生まれる連帯感や同胞意識のことを「コムニタス」と呼びました。

他の参加者と色々な話をして、一緒に食事をとって、交流を深めながら聖地を訪れることで、その聖地への巡礼体験は、さらに充実したものになるのではないのでしょうか。

今回の旅では、本当にたくさんの聖地や史跡を巡りました。

私の記憶の中では、どの場所も参加された皆さんと結びついています。

あの時ある方が家族の話をしていたとか、レオンで突然大雨が降ってきて皆でバールに駆け込んだとか、ブルゴスにトイレがなかったとか、フロミスタで神父様に葉巻の吸い方を教えてもらったとか、聖体訪問の時の歌が自分の好きな歌だったとか。特にルルドの修道院で、他のグループと一緒に巡礼団全体と一緒に食事をした時の印象が鮮烈です。

こうやって書くとなんだかどうでも良いことのようにですが、これらの出来事全部が、どの聖地とも結びついていて、それが自分の聖地の記憶や体験の核に

なっています。逆にいえば、こうした他の方々との体験や思い出を切り離してしまおうと、どの聖地の記憶も曖昧になってしまうような気がします。

これまでも日本やヨーロッパでたくさんの聖地や教会を巡って調査をしてきましたが、その中でも良く覚えている場所では、必ず他の訪問者の方と交流をもった場所です。そうでない場所では、その聖地に対する体験がなんだか浅いような気がします。それを「巡礼」と言ってしまうのは非常に憚られます。

逆にいえば、コミュニタスの記憶と一緒に思い出せる聖地への旅行ならば、たとえ自分がキリスト者ではなくても、それは巡礼だったと言っても良いような気がします（本当は良くないのかもしれませんが・・・）。